

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4079000065
法人名	有限会社ミモレ・ダイコク
事業所名	グループホーム「やまびこ」
所在地 (電話番号)	福岡県みやま市山川町河原内1224番地 (電話) 0944-64-9700
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年12月4日

【情報提供票より】(平成19年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) 改築
建物構造	木造一部鉄筋 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費	有	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(72,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(平成19年11月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山内医院・くさかべまきクリニック・ひかり歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山川町の大根川のほとりに位置し、静かな山あいにあつた「みかん山」を背景に明るい感じの施設である。一歩中に入ると外観と違って木造建築の暖かい落ち着いた雰囲気の中で利用者の方々が活いきと暮らしている。建物は2ユニットを通して、東から西へ一直線の廊下があり格好のりハビリ歩行の場となっている。毎日気の合った人同士で連れ立て歩いておられるほほ笑ましい情景が見られる。入浴については日曜日を除いて毎日いつでも利用出来る体制が整えられ、理念を大切にしたい支援が実践されているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での複数課題の中で地域密着型の視点での理念づくりの取り組みができていないので、職員とともにつくることが望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議のときに全職員で自己評価項目について話し合いを行い、管理者が記入した後、さらに職員に意見を求める方法で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回、家族や利用者の代表、市職員、民生委員、大学の先生の10名程度で開催している。利用者の状況や行事などを報告し、グループホームを理解してもらったり、意見をいただいたりして、ケアの向上に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	施設発行の「やまびこ通信」を毎月発刊し、日常の様子や行事の状況を報告している。家族の訪問時には、意見や要望を聞くように努め、遠方の家族へは電話にて連絡をし、苦情や意見が出し易いように苦情箱を設置すると共に介護相談員の受け入れをしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事である種々の祭りや敬老会に積極的に参加し、近隣の方々との交流に努めている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所名である「やまびこ」の頭文字をとって理念をつくりあげ、日々それに向かって努力されているが、理念の中に地域とのかかわりの視点が盛り込まれていない。	○	これまでの理念とあわせて、地域密着型としての視点での理念づくりが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、理念を朝礼で唱和し共有を図っている。また、日々のケアの中で気付いたことをその都度、お互いに助言したり、話し合ったりしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の梅まつりや他の地域行事に積極的に参加しており、なじみの関係になるよう支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員会議のときに全職員で自己評価項目について話し合いを行い、管理者が記入した後、さらに職員に意見を求める方法で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、家族や利用者の代表、市職員、民生委員、大学の先生の10名程度で開催している。利用者の状況や行事などを報告し、グループホームを理解してもらったり、意見をいただいたりして、ケアの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症デイサービスを来年4月開設するため、その関連のことや重度化、看取りについて頻回に市と連絡を取っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	契約時、書面に基づいて本人と家族に説明している。現在のところ成年後見制度を活用している人はいないが、職員は勉強会をもち、いつでも対応できるよう準備している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が頻繁にあり、その都度利用者の心身の状況や生活の様子を報告している。遠方の方には電話連絡をしている。また、やまびこ通信を毎月発行し行事やホームの状況を金銭出納帳のコピーを合わせて送付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に相談窓口を明記している。また、ホーム内に掲示したり、意見箱を設置したり、介護相談員の受け入れをしている。家族の意見に対しては、その都度対応をしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はないが、離職などで動きがあるときは、顔なじみの職員と一緒にさりげなく離職の挨拶をし、利用者の動揺がないよう配慮することを考えている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢や性別ではなく、人物本位で採用している。ピアノや歌が好き、手先の器用さなど職員の得意なことが発揮できるように支援している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員に対して言動が粗雑にならないよう常日頃から指導をしている。学習会の中でも人権教育を取り入れている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では毎週のスタッフ会議や月末の会議で認知症ケアの資料を配布して学習会を開催している。また、外部研修に参加した時は伝達研修を行って、職員のステップアップを図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他のグループホームから見学に来られた時に情報交換をしている。また、グループホーム連絡会の学習に参加し、ケアの向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ホームの雰囲気に馴染めるよう見学していただいたり、1日あるいは1週間程度の体験入居をしていただき、その後の入居となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者と職員が一緒にお茶を飲み、会話を楽しみ、利用者から人生訓を聞いたり、調理のコツや畑の手入れ方法など教えてもらったりしており、双方向の関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	本人がどのような暮らしをしたいのか、日々のかかわりの中で把握に努めている。帰宅願望などある時は、日常の行動や様子から意向を汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用者一人ひとりの要望にそうよう本人や家族から希望を聞き、課題となることを関係スタッフと話し合い、介護計画書の作成をしている。		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画の遂行状況や効果を評価し、6カ月ごとに見直しをしている。また、必要に応じて変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や希望に応じて、受診の送迎、季節毎の花見や紅葉狩り等、ホーム所有のリフトパスを使用して出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて、それぞれのかかりつけ医受診の支援をしている。訪問看護とも連携をとり、24時間健康管理の体制を整え支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に終末期の要望を聞き、本人や家族の希望を最大限に取り入れるようにしている。又、職員にも終末期の対応の有り方について周知している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、気をつけている。個々の尊厳を大切にし、言葉かけにも十分に気配りをしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべての事柄において本人の体調や気分に合わせて、無理強いすることなく、利用者自身が心地よいと思える過ごし方を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し、利用者の好みに合わせた献立を作っている。利用者と職員と共にテーブルを囲み同じものを食している。又、材料の下処理や食器片づけ等、個々の能力に合わせて職員と共に作業している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望を確認し、日曜日を除いて毎日入浴出来る体制を整えている。失禁時など必要に応じて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、花壇作り、掃除、洗たく物たたみ、お茶くみなど趣味や得意とすることなど、役割の支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、外食、散歩、ドライブなど日常的に外出の支援が出来ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠をし、昼間はセンサーやチャイムで対応している。物取られ妄想の方数人は自分で居室に鍵をかけている。職員は必要に応じてスペアキーで対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと災害時におけるマニュアル及び訓練や消火器の取り扱い方について職員全員に適確に周知されている。又、近隣へ協力の依頼をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事や水分の摂取量を記録し、職員は、情報を共有し、一人ひとりの食欲や状態に合わせて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールにはソファが置かれ、リビングの日当たりの良いところには畳敷きの“場”が設けてあり、そこには季節の花などが飾られている。また、素晴らしい景色が眺められるよう窓を大きくし、利用者が自由にくつろげるよう工夫されている。		

福岡県 グループホーム「やまびこ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使いなれた調度品などが持ち込まれ、居心地良い居室となっている。</p>		